

新型コロナウイルス感染症の県内家計への影響

2020年8月18日

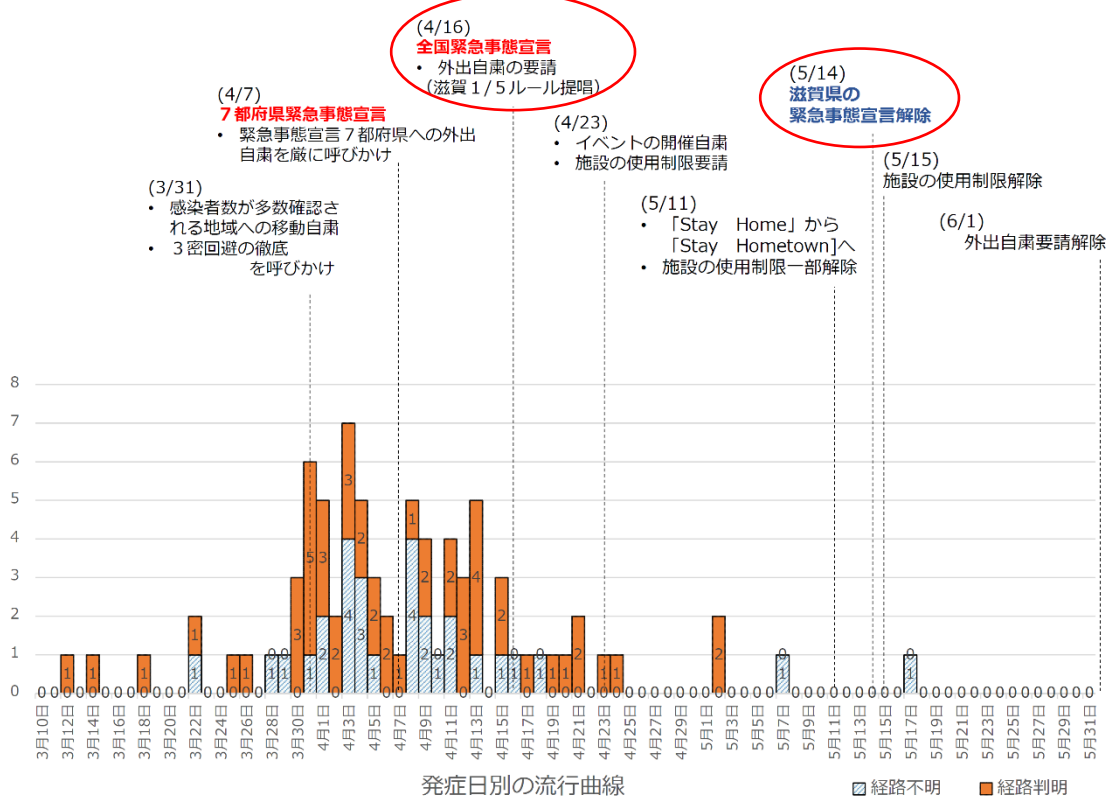
(株)しがぎん経済文化センター
産業・市場調査部：志賀

- ・滋賀県では、今年1月29日に新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、感染拡大防止対策、医療提供体制の充実、経済・雇用・生活支援対策等に取り組んできた。4月16日、「緊急事態宣言」が全国に拡大されたことを受け、県では外出自粛要請などの「緊急事態措置」を発表し、県民の行動変容を促す「滋賀1／5ルール」を提唱した。
- ・このような状況下、大津市の家計収入の動きを「家計調査」(大津市)のなかの「実収入」と「可処分所得」からみると、実収入は2月に大きく落ち込み、3月、4月と横ばいで推移し、5月は大幅に増加した。「可処分所得」も同様の動きを示し、2月から4月の伸び率は低下したものの、5月は大きく上昇した。
- ・一方、県内の民間事業所における毎月の賃金や労働時間などの動きを調査している「毎月勤労統計調査」のなかの「名目現金給与総額」をみると、今年1月以降、前年を大きく下回り、月々の変動はあるものの、減少傾向がみられる。
- ・大津市の消費マインドの動きを「平均消費性向」でみると、1月と3月、4月は前年に比べ大きく減少し、相当の冷え込みといわざるを得ない。
- ・「家計調査」(大津市)のなかの「二人以上の世帯」における「消費支出」の最近の動きをみると、3月上旬頃の自衛的な外出自粛から4月16日の「緊急事態宣言」を経るなかで、3月と4月は前年を大きく下回った。5月は14日の「緊急事態宣言」解除を受けて徐々に回復の兆しがみられた。
- ・消費支出の中の「十大費目」(「住居」を除く)の動きをみると、外出自粛、在宅勤務、学校活動の休業といった日常生活における大きな変化によって起きた、いわゆる“巣ごもり消費”などの従来とは全く異なる消費・生活パターンが確認できる。
- ・これらの動きの中には、一時的なもので感染拡大の終息とともに元に戻るとみられるものもあるが、一方で今後の新しい消費パターンのひとつとして定着し、新しい生活パターンとなっていくと考えられるものもある。
- ・厚生労働省では、「新しい生活様式」の実践例をホームページに掲載している。そこにはこれからの消費・生活パターンの参考となる具体例が細かく例示されている。また、働き方についても新しいスタイルが提示されている。
- ・これらの消費・生活パターンの具体例をみると、そこには従来型の製品や商品、ビジネスモデルで対応可能なものもあるものの、全く新しい発想やビジネスモデルで商品やサービスを開発、製造、販売・提供するものがみられ、ここに“ウィズコロナ”の新たなビジネスチャンスのヒントが潜んでいると思われる。新たなビジネスチャンスに向けての積極的な挑戦に大いに期待したい。

はじめに

- ・滋賀県では、今年1月29日に新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、感染拡大防止対策、医療提供体制の充実、経済・雇用・生活支援対策等に取り組んできた。
- ・4月16日、それまで7都府県に出されていた「緊急事態宣言」が全国に拡大されたことを受け、県では外出自粛要請などの「緊急事態措置」を発表した。そして、接触機会を8割程度低減するためには私たちの行動を1/5に減らすことが必要になるため、そのために県民の行動変容を促す「滋賀1/5ルール」を提唱した。これは、例えば、週5日通っている仕事を1日にして、残り4日は在宅勤務にする、50分間の会議は10分間にする、食料や日用品の買い物も家族全員で出かけるのではなく、1人で出かける、毎日出かけるのではなく、週に1日の買い物にするなどの日常の行動を変えていくというものである。

● 県の緊急事態措置と県内の感染動向



(資料) 滋賀県「新型コロナウイルス感染症に対する振り返りと今後の方向性 (骨子案)」(令和2年6月22日)

● これまでの経過

・本部員会議（16回）・新型コロナウイルス感染症対策調整会議（48回）・首長会議（1回）・市町長とのweb会議（2回）

対策本部等の主な動き	備考
1月16日	<陽性患者国内初確認>
1月27日 ・滋賀県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議設置	
1月29日 ・滋賀県新型コロナウイルス感染症対策本部設置	
3月5日	<県内初の陽性患者の確認>
3月26日 ・改正新型インフルエンザ特措法に基づく法定対策本部に移行	
4月16日 ・緊急事態措置発表（外出自粛要請）	・緊急事態宣言が全国に拡大
4月14日	・首長会議
4月21日 ・緊急事態措置改定（外出自粛要請、イベント自粛要請、施設使用制限等）・コロナウイルス感染症対策推進体制拡充	
4月27日	・市町長とのweb意見交換会
5月4日	・緊急事態宣言を延長（全国～5/31）
5月5日 ・緊急事態措置改定（施設使用制限等の一部緩和（5/11～）、措置期間延長（～5/31））	
5月14日 ・「コロナとのつきあい方滋賀プラン」策定 ・緊急事態措置改定（施設使用制限等の解除）	・緊急事態宣言解除（39県のみ）
5月29日 ・自粛要請を段階的に緩和（6/1～）	・市町長とのweb意見交換会

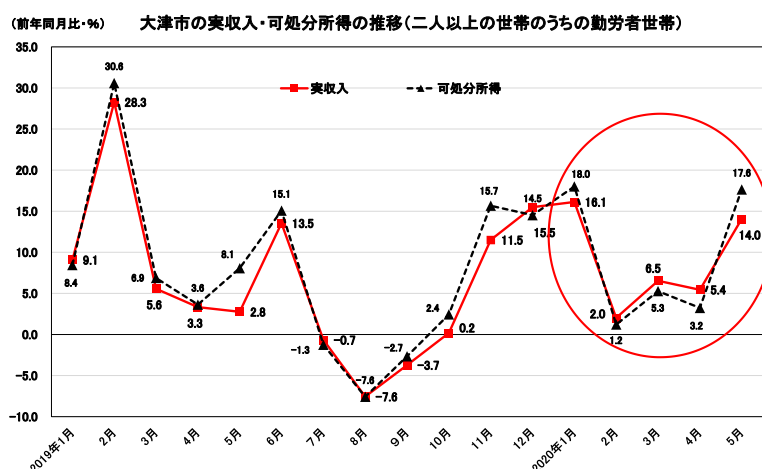
（資料）滋賀県「新型コロナウイルス感染症に対する振り返りと今後の方向性（骨子案）」（令和2年6月22日）

- ・県のホームページに掲載された資料からこれまでの経過をみると、1月29日に「滋賀県新型コロナウイルス感染症対策本部」が設置され、3月5日に県内初の陽性患者が確認、4月16日、「緊急事態宣言」が全国に拡大されたことにより、県下にも「緊急事態措置」が発表され、知事が「滋賀1／5ルール」を提唱し、外出自粛を要請。その後の5月4日、「緊急事態宣言」は5月末まで延長されたが、5月14日に当県を含め39県で同宣言は解除された。県では「コロナとのつきあい方滋賀プラン」を策定し、また、施設使用制限等の解除などの「緊急事態措置」を改定した。そして、6月1日から自粛要請を段階的に緩和することを5月29日に発表した。

1. 家計収入の変化

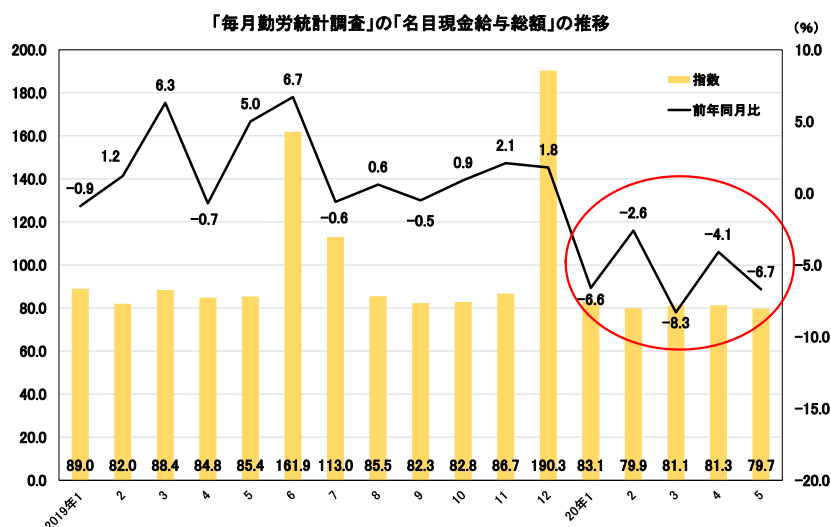
(1) 大津市の「実収入」、「可処分所得」の推移

- ・大津市の家計収入の動きを、「家計調査」（大津市）のなかの「二人以上の世帯のうち勤労者世帯」（対象世帯数は43から56世帯で月々変動あり）における「実収入」と「可処分所得」からみると、実収入は2月に大きく落ち込み（前年同月比+2.0%）、3月（同+6.5%）、4月（同+5.4%）と横ばいで推移し、5月は大幅に増加した（同+14.0%）。これは、世帯主の定期収入とその配偶者の収入が大きく増加したためで、対象世帯数が少ないための統計上の偏りと考えられる。
- ・「可処分所得」も同様の動きを示し、2月から4月の伸び率は低下したものの、5月は大きく上昇した（同+17.6%）。



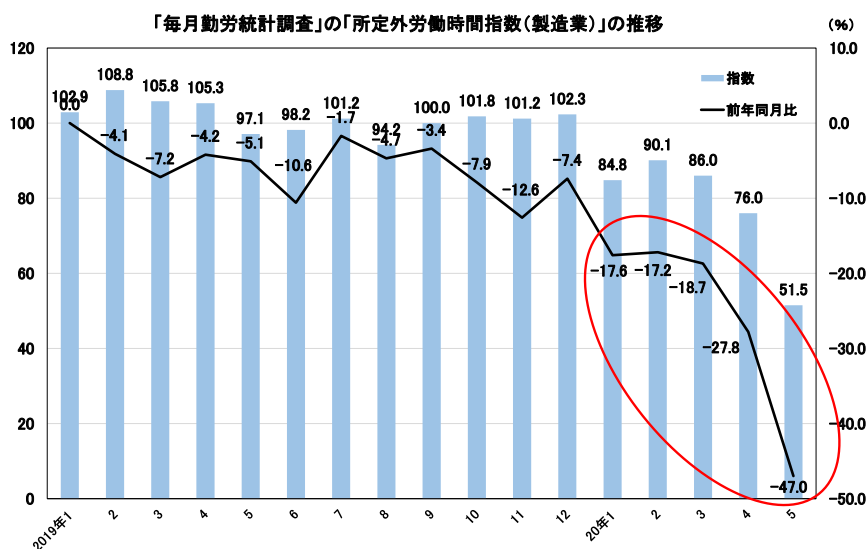
(2) 「毎月勤労統計調査」における「名目現金給与総額」の推移

- ・一方、県内の民間事業所における毎月の賃金や労働時間などの動きを調査している「毎月勤労統計調査」（常用労働者5人以上の事業所、県内は約690事業所を対象）のなかの「名目現金給与総額」をみると、今年1月以降、前年を大きく下回り、月々の変動はあるものの、減少傾向がみられる。



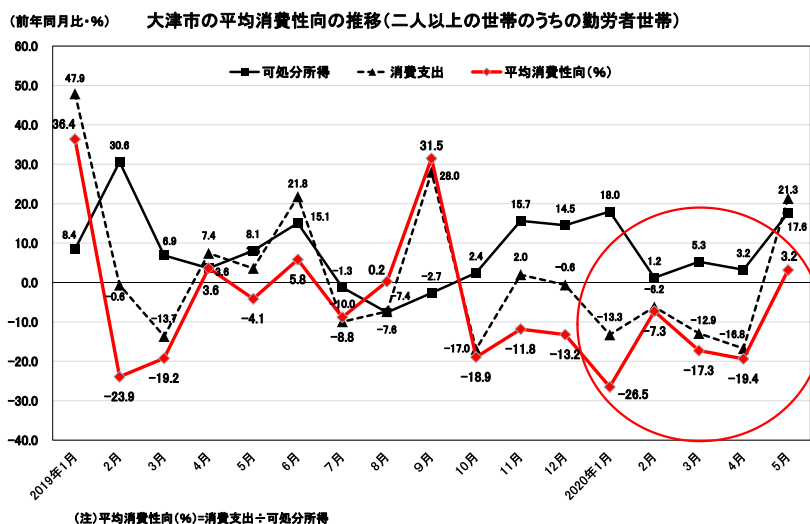
(3) 「毎月勤労統計調査」における「所定外労働時間指数（製造業）」の推移

- ・上記、実収入のうちの定期収入の動きを左右する超過勤務手当の元となる、いわゆる残業時間の推移を同調査からみると、これも1月以降、前年を大きく下回り、とくに5月は大幅な減少となった（同-47.0%）。今後の動向が注目される。



(4) 大津市の「平均消費性向」の推移

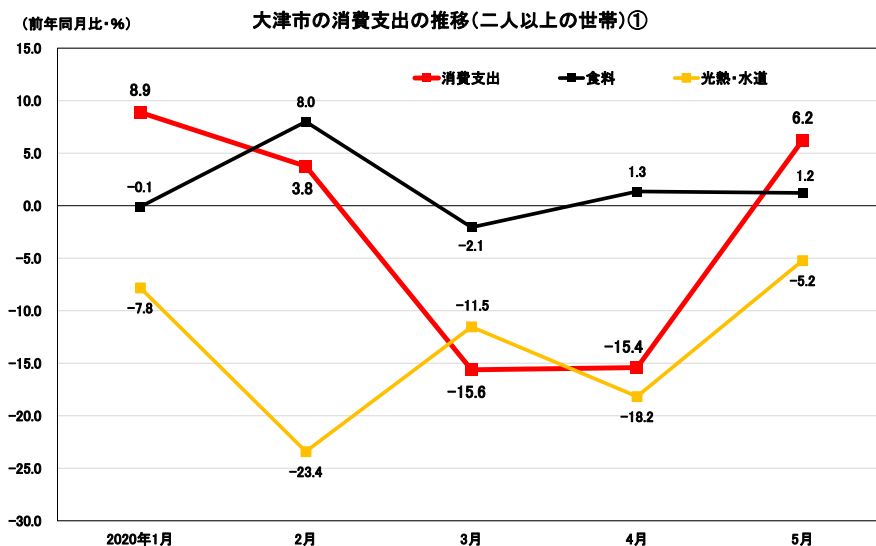
- ・大津市の消費マインドの動きを可処分所得に対する消費支出である「平均消費性向」で見ると、1月と3月、4月は前年に比べ大きく減少している（1月：同-26.5%、3月：同-17.3%、4月：同-19.4%）。
- ・消費税率引き上げに伴う駆け込み需要で19年9月は大幅の増加となり（同+31.5%）、翌10月はその反動で大幅減となった（同-18.9%）。最近の動きはこの反動減と同程度のマイナス水準が続いている状態と考えられ、消費マインドは相当の冷え込みといわざるを得ない。



2. 家計消費支出の変化

(1) 「消費支出」「食料」「光熱・水道」の推移

- ・「家計調査」（大津市）のなかの「二人以上の世帯」（対象世帯数は85から95世帯で月々変動あり）における「消費支出」の最近の動きをみると、3月上旬頃の自衛的な外出自粛から4月16日の「緊急事態宣言」を経るなかで、3月と4月は前年を大きく下回った（3月：同-15.6%、4月：同-15.4%）。5月は14日の「緊急事態宣言」解除を受けて徐々に回復の兆しがみられた（同+6.2%）。
- ・消費支出の中の「十大費目」（変動の大きい「住居」を除く）の動きをみると、まず「食料」では、2月には「調理食品」などの保存性の高い食品の買い急ぎ、買いだめ（同+14.1%）や「外食」の増加がみられたため（同+50.3%）、全体に大幅の増加となった（同+8.0%）。3月に入ると前月の買いだめの反動などから減少となったが（同-2.1%）、4月からは外出自粛のなか「外食」が減少した反面（同-53.1%）、家庭内で食事をするようになったため、米や麺類、肉類、乳製品、卵、調味料、調理食品、酒類などが増え、全体に増加した（4月：同+1.3%、5月：同+1.2%）。
- ・「光熱・水道」は、外出自粛で家庭で過ごす時間が増えたものの、暖冬や石油製品価格低下の影響から前年比マイナスで推移した。

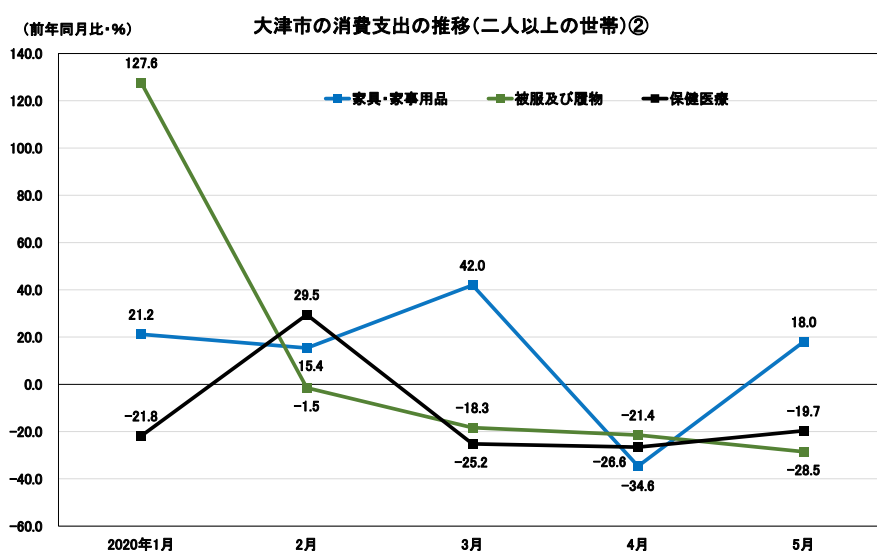


1世帯当たり1か月間の支出 (二人以上の世帯)	食料 (大津市)									
	2020年1月		2月		3月		4月		5月	
	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比
食料	79,828	▲ 0.1	78,244	8.0	79,618	▲ 2.1	75,257	1.3	80,155	1.2
穀類	6,026	▲ 7.1	6,446	3.3	7,077	▲ 3.3	7,300	15.6	7,468	22.0
うち米	1,347	▲ 18.3	1,679	3.1	1,989	▲ 13.4	2,197	33.8	2,017	41.7
うちパン	2,899	▲ 3.4	2,796	▲ 7.5	2,870	▲ 13.8	2,746	▲ 12.5	2,917	▲ 4.0
うち麺類	1,250	▲ 5.5	1,406	21.0	1,706	32.7	1,785	64.4	1,895	49.8
魚介類	6,941	2.1	5,448	▲ 11.6	6,366	▲ 11.0	6,463	7.1	6,479	▲ 0.9
肉類	9,443	▲ 6.5	8,376	▲ 1.3	9,083	▲ 10.2	9,313	3.1	9,915	8.8
乳卵類	3,950	3.6	4,012	6.4	4,430	5.3	4,911	19.8	5,101	22.5
うち牛乳	1,072	▲ 13.1	1,088	▲ 4.3	1,193	▲ 15.0	1,335	▲ 3.3	1,530	1.3
うち乳製品	2,055	19.2	2,103	16.3	2,328	20.7	2,627	41.5	2,486	35.6
うち卵	823	▲ 3.6	821	▲ 0.7	910	3.8	949	10.1	1,085	32.2
野菜・海藻	8,930	▲ 6.4	7,854	▲ 12.5	8,803	▲ 9.7	10,139	4.3	10,854	12.8
果物	2,628	1.8	2,697	▲ 4.0	2,700	▲ 10.4	3,035	4.4	3,027	14.3
油脂・調味料	3,608	1.0	3,717	▲ 1.7	3,876	▲ 0.5	3,886	10.7	4,216	2.8
うち油脂	344	20.7	412	▲ 13.8	416	▲ 14.6	414	3.8	340	▲ 17.7
うち調味料	3,264	▲ 0.7	3,305	0.1	3,460	1.5	3,471	11.6	3,876	5.1
菓子類	6,320	4.0	7,117	9.8	7,144	3.6	6,477	6.3	7,025	7.2
調理食品	9,752	6.1	9,347	14.1	9,847	6.5	10,368	18.3	10,637	18.4
うち主食的調理食品	4,077	2.0	4,328	23.7	3,982	7.5	4,047	19.9	3,974	18.2
うち他の調理食品	5,674	9.2	5,018	6.9	5,864	5.9	6,321	17.4	6,663	18.6
飲料	3,828	▲ 2.9	3,970	14.6	3,913	▲ 17.0	4,210	8.9	4,665	2.0
酒類	2,605	▲ 16.5	2,716	▲ 15.2	3,251	10.9	3,595	72.4	3,570	6.0
外食	15,797	7.6	16,543	52.0	13,128	9.0	5,560	▲ 53.0	7,197	▲ 46.4
うち一般外食	14,292	3.8	14,991	50.3	11,511	1.9	5,353	▲ 53.1	7,131	▲ 45.2

1世帯当たり1か月間の支出 (二人以上の世帯)	光熱・水道 (大津市)									
	2020年1月		2月		3月		4月		5月	
	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比
光熱・水道	25,405	▲ 7.8	23,651	▲ 23.4	25,762	▲ 11.5	22,213	▲ 18.2	22,777	▲ 5.2
電気代	12,775	▲ 7.7	11,550	▲ 24.9	13,442	▲ 4.4	9,826	▲ 29.3	11,252	▲ 6.0
ガス代	4,592	▲ 1.7	4,684	▲ 30.0	4,954	▲ 18.2	5,443	▲ 14.4	5,265	▲ 3.1
他の光熱	1,795	▲ 15.0	1,263	▲ 30.8	717	▲ 49.3	242	▲ 51.1	54	▲ 67.3
上下水道料	6,243	▲ 10.1	6,155	▲ 12.0	6,649	▲ 12.4	6,701	4.8	6,205	▲ 4.0

(2) 「家具・家事用品」「被服及び履物」「保健医療」の推移

- ・「家具・家事用品」では、1月と2月にはトイレットペーパーや洗剤などの「家事用消耗品」の買いだめがみられ（1月：同+6.2%、2月：同+31.8%）、3月には白物家電などの「家事用耐久財」（同+99.1%）や食卓セットや食器戸棚などの「一般家具」（同+492.6%）が増加したため、前年比大幅の増加となった（同+42.0%）。次の4月は前月の反動減で大きく落ち込んだが（同-34.6%）、5月には再びトイレットペーパーや洗剤、防虫剤、殺虫剤などの「家事用消耗品」が増加したため（同+44.6%）、前年を大きく上回った（同+18.0%）。
- ・「被服及び履物」では、1月に「洋服」や「シャツ・セーター類」、「下着類」が前年を大きく上回ったため、前年比大幅の増加となったが（同+127.6%）、3月以降、外出自粛に伴い前年比大幅のマイナスとなっている（3月：同-18.3%、4月：同-21.4%、5月：同-28.5%）。
- ・「保健医療」では、2月以降、マスクや紙おむつ、体温計などの「保健医療用品・器具」は品切れや品不足の状態がみられたものの、大幅増が続いているが（2月：同+70.4%、3月：同+49.9%、4月：同+51.4%、5月：同+38.7%）、一方で、診療代などの「保健医療サービス」が感染防止の観点から診療を控える人が増えたため、3月以降、大幅減となっている（3月：同-36.5%、4月：同-53.1%、5月：同-40.7%）。これらの要因から2月は大幅増となったものの（同+29.5%）、3月以降は大幅減となっている（3月：同-25.2%、4月：同-26.6%、5月：同-19.7%）。



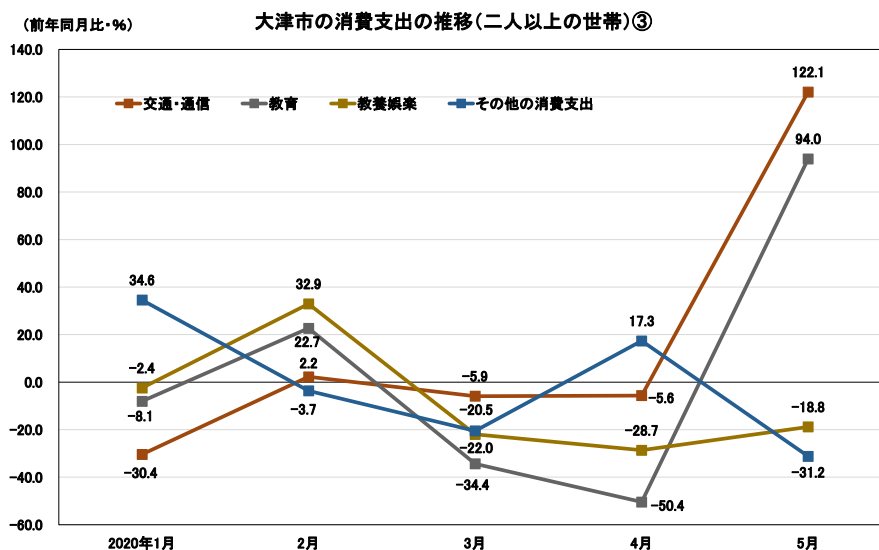
1世帯当たり1か月間の支出 (二人以上の世帯)	家具・家事用品 (大津市)									
	2020年1月		2月		3月		4月		5月	
	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比
家具・家事用品	13,688	21.2	8,100	15.4	14,008	42.0	6,251	▲ 34.6	9,461	18.0
家庭用耐久財	8,035	51.5	1,659	19.4	5,397	108.1	324	▲ 92.0	1,735	70.1
うち家事用耐久財	6,383	287.6	1,248	▲ 6.3	4,982	99.1	287	▲ 93.0	1,009	17.2
うち一般家具	143	▲ 94.8	0	▲ 100.0	320	492.6	0	-	670	449.2
室内装備・装飾品	246	▲ 30.5	317	▲ 20.8	647	143.2	224	▲ 39.1	538	129.9
寝具類	102	▲ 91.6	530	118.1	1,562	76.3	238	▲ 73.5	222	▲ 21.8
家事雑貨	2,215	30.0	2,055	23.9	2,713	▲ 0.5	1,564	0.1	2,311	▲ 16.8
家事用消耗品	2,514	6.2	3,316	31.8	3,425	38.4	3,643	53.5	4,316	44.6
家事サービス	575	65.7	224	▲ 72.5	263	▲ 71.5	257	▲ 9.8	339	▲ 52.9

1世帯当たり1か月間の支出 (二人以上の世帯)	被服及び履物 (大津市)									
	2020年1月		2月		3月		4月		5月	
	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比
被服及び履物	20,297	127.6	7,248	▲ 1.5	10,787	▲ 18.3	6,696	▲ 21.4	6,985	▲ 28.5
和服	8	-	0	-	0	-	0	-	23	-
洋服	12,604	249.0	3,423	18.0	5,021	▲ 25.2	2,696	16.5	1,893	▲ 51.8
シャツ・セーター類	2,450	51.0	1,028	▲ 21.0	1,649	▲ 37.3	1,439	▲ 31.3	1,346	▲ 27.9
下着類	1,402	51.1	556	58.9	536	▲ 21.6	362	▲ 39.7	1,090	62.9
履物類	1,817	34.9	1,062	▲ 15.3	2,392	25.4	1,146	▲ 1.9	747	▲ 54.5
被服関連サービス	605	107.9	301	▲ 0.3	581	54.9	434	▲ 62.8	1,042	18.3

1世帯当たり1か月間の支出 (二人以上の世帯)	保健医療 (大津市)									
	2020年1月		2月		3月		4月		5月	
	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比
保健医療	14,591	▲ 21.8	14,599	29.5	13,155	▲ 25.2	13,015	▲ 26.6	9,606	▲ 19.7
医薬品	2,291	▲ 50.1	2,311	3.6	2,268	▲ 31.8	2,579	0.7	2,733	▲ 26.4
健康保持用摂取品	1,013	47.7	514	▲ 10.9	1,049	6.2	1,329	66.5	945	▲ 18.3
保健医療用品・器具	2,562	▲ 0.9	3,375	70.4	2,448	49.9	3,436	51.4	3,014	38.7
保健医療サービス	8,725	▲ 19.2	8,399	29.6	7,389	▲ 36.5	5,671	▲ 53.1	2,914	▲ 40.7

(3) 「交通・通信」「教育」「教養娯楽」「その他の消費支出」の推移

- ・「交通・通信」では、鉄道運賃や定期代、バス代、タクシー代などの「交通」はマイナス基調で推移しているが、とくに4月（同-68.1%）、5月（同-82.7%）は前年比大幅の減少となっている。携帯電話や固定電話の通信料などの「通信」は3月（同+6.5%）と4月（同+3.0%）は前年を大きく上回った（同-8.7%）。これは、外出自粛に伴い交通費は減った半面、携帯電話などの通信が増え、まさに“巣ごもり”状態の生活様式によるものと考えられる。
- ・「教育」では、県立中高、特別支援学校、市町立小中学校の教育活動は3月2日（一部、3日ないし4日）から24日までが休業となり、その後4月8日から学校再開したものの、感染拡大防止の観点から再び13日から5月31日まで休業が延長され、6月1日に再開された。この状況を受け、3月、4月は「授業料等」が前年比大幅の減少となり、5月に大幅増となった（3月：同-51.8%、4月：同-68.1%、5月：同+102.1%）。一方、学習塾の月謝などの「補習教育」は大幅の増加となった（3月：同+19.8%、4月：同+347.1%、5月：同+48.5%）。
- ・「教養娯楽」では、4月と5月に「教養娯楽用品」が前年を大幅に上回り（4月：同+11.0%、5月：同 21.8%）、5月には「教養娯楽用耐久財」が大幅の増加となった（同+237.3%）。また、「教養娯楽サービス」が3月以降、大幅の減少となっている（3月：同-26.6%、4月：同-44.8%、5月：同-50.3%）。これは、主にパック旅行費の大幅減によるもの（3月：同-86.2%、4月：同-100.0%、5月：同-97.6%）。これらも上記の“巣ごもり”の生活様式が関係しているものと思われる。
- ・「その他の消費支出」では、石けんやシャンプー、歯ブラシなどの「理美容用品」は2月と4月に大幅増加したが（2月：同+65.9%、4月：同+24.1%）、外出自粛、在宅勤務などからパーマ代、カット代などの「理美容サービス」は4月、5月と大幅に減少した（4月：同-55.9%、5月：同-39.0%）。また同じ要因から、かばんなどの「身の回り用品」も3月以降、大幅の減少となっている（3月：同-14.5%、4月：同-25.8%、5月：同-79.9%）。「たばこ」は感染症対策や健康意識の高まりなどからこれも3月以降、大幅減少（3月：同-70.8%、4月：同-69.1%、5月：同-55.1%）。「交際費」も3月と5月は大幅に減少（3月：同-44.1%、5月：同-18.5%）。



1世帯当たり1か月間の支出 (二人以上の世帯)	交通・通信 (大津市)									
	2020年1月		2月		3月		4月		5月	
	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比
交通・通信	37,274	▲ 30.4	47,786	2.2	31,032	▲ 5.9	53,040	▲ 5.6	93,631	122.1
交通	4,036	▲ 26.1	5,786	▲ 11.2	4,931	▲ 17.6	4,015	▲ 68.1	1,642	▲ 82.7
自動車等関係費	18,744	▲ 44.9	31,118	12.9	13,521	▲ 11.0	37,659	15.6	78,896	330.8
通信	14,494	2.7	10,882	▲ 14.1	12,580	6.5	11,365	3.0	13,093	▲ 8.7

1世帯当たり1か月間の支出 (二人以上の世帯)	教育 (大津市)									
	2020年1月		2月		3月		4月		5月	
	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比
教育	7,968	▲ 8.1	8,690	22.7	14,122	▲ 34.4	13,746	▲ 50.4	31,251	94.0
授業料等	3,700	▲ 8.0	5,957	75.1	8,282	▲ 51.8	8,395	▲ 68.1	27,647	102.1
教科書・学習参考教材	165	650.0	125	52.4	1,851	82.4	394	36.8	32	39.1
補修教育	4,104	▲ 11.2	2,607	▲ 27.6	3,989	19.8	4,958	347.1	3,572	48.5

1世帯当たり1か月間の支出 (二人以上の世帯)	教養娯楽 (大津市)									
	2020年1月		2月		3月		4月		5月	
	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比	金額 (円)	前年同月比
教養娯楽	28,486	▲ 2.4	36,617	32.9	22,577	▲ 22.0	24,991	▲ 28.7	21,709	▲ 18.8
教養娯楽用耐久財	3,261	151.8	2,576	44.6	835	▲ 67.3	1,912	▲ 36.6	2,304	237.3
教養娯楽用品	4,776	▲ 12.6	7,631	81.3	7,473	1.5	8,304	11.0	8,133	21.8
書籍・他の印刷物	3,699	0.1	3,845	▲ 2.5	3,314	▲ 19.4	3,289	▲ 11.5	3,580	▲ 8.2
教養娯楽サービス	16,748	▲ 10.7	22,564	28.1	10,955	▲ 26.6	11,486	▲ 44.8	7,692	▲ 50.3
うち宿泊料	2,025	▲ 0.7	1,925	213.5	1,028	▲ 22.2	1,262	▲ 18.9	0	▲ 100.0
うちバック旅行費	1,045	▲ 54.6	4,884	▲ 5.3	383	▲ 86.2	0	▲ 100.0	33	▲ 97.6
うち月謝類	4,941	27.7	6,273	87.7	3,190	▲ 8.4	2,871	▲ 10.4	1,558	▲ 47.4

1世帯当たり1か月間の支出 (二人以上の世帯)	その他の消費支出（大津市）									
	2020年1月		2月		3月		4月		5月	
	金額（円）	前年同月比	金額（円）	前年同月比	金額（円）	前年同月比	金額（円）	前年同月比	金額（円）	前年同月比
その他の消費支出	85,012	34.6	45,632	▲ 3.7	46,140	▲ 20.5	48,106	17.3	44,038	▲ 31.2
諸雑費	30,183	19.7	20,954	▲ 23.3	22,076	▲ 16.6	21,415	13.8	21,937	▲ 12.3
うち理美容サービス	4,447	69.7	3,008	10.0	3,489	7.3	1,421	▲ 55.9	2,339	▲ 39.0
うち理美容用品	5,345	6.9	6,427	65.9	4,582	▲ 31.4	5,172	24.1	4,628	▲ 12.7
うち身の回り用品	1,359	▲ 41.0	1,647	48.1	1,545	▲ 14.5	1,054	▲ 25.8	319	▲ 79.9
うちたばこ	612	▲ 21.8	380	▲ 16.7	241	▲ 70.8	327	▲ 69.1	430	▲ 55.1
交際費	43,541	62.3	16,300	84.1	4,825	▲ 44.1	15,734	15.1	16,227	▲ 18.5

3. 新型コロナによる消費・生活パターンの変化と今後の方向性

(1) 消費・生活パターンの変化について

- このような家計調査（大津市）の最近の動きをみると、外出自粛、在宅勤務、学校活動の休業といった日常生活における大きな変化によって起きた、いわゆる“巣ごもり消費”などの従来とは全く異なる消費・生活パターンが確認できる。これらの動きの中には、一時的なもので感染拡大の終息とともに元に戻るとみられるものもあるが、一方で今後の新しい消費パターンのひとつとして定着し、新しい生活パターンとなっていくと考えられるものもある。例えば、外出から内食（うちしょく、ないしょく、家庭内で調理、食事すること）へのシフト、調理機会の増加に伴う調理器具の買い替えや新規購入、面談による日常会話が携帯メールやLine、Zoomなどのデジタルツールを使った日常会話に代わっていく。一方、外出の減少に派生する衣料品や化粧品の購入減少、診療所や病院での外来通院の減少などが今後、定着していく可能性があると思われる。

(2) 今後の方向性について

- 厚生労働省では、国が推奨する「新しい生活様式」の実践例をホームページに掲載している。そこには、「(1) 一人ひとりの基本的感染対策」、「(2) 日常生活を営む上での基本的生活様式」、「(3) 日常生活の各場面別の生活様式」、最後に「(4) 働き方の新しいスタイル」の実例が挙げられている。
- まず、「(1) 一人ひとりの基本的感染対策」では感染防止の3つの基本として、①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いが提示され、移動に関する感染対策についても具体的な行動を例示している。
- 次に、「(2) 日常生活を営む上での基本的生活様式」では手洗い・手指消毒をはじめ、「密集、密接、密閉」のいわゆる「3密」の回避などが細かく提示されている。
- そして、これからの消費・生活パターンの参考となる具体例が「(3) 日常生活の各場面別の生活様式」と「(4) 働き方の新しいスタイル」に記載されている。各場面別では「買い物」、「娯楽、スポーツ等」、「公共交通機関の利用」、「食事」、「イベント等への参加」について具体的に細かく例示されている。また、働き方についても新しいスタイルが提示されている。

- これらの消費・生活パターンの具体例をみると、そこには従来型の製品や商品、ビジネスモデルで対応可能なものもあるものの、全く新しい発想やビジネスモデルで商品やサービスを開発、製造、販売・提供するものがみられ、ここに“ウィズコロナ”の新たなビジネスチャンスのヒントが潜んでいると思われる。新たなビジネスチャンスに向けての積極的な挑戦に大いに期待したい。

「新しい生活様式」の実践例

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との間隔は、**できるだけ2m（最低1m）**空ける。
 - 会話をする際は、可能な限り**真正面を避ける**。
 - 外出時や屋内でも会話をするとき、**人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する**。ただし、**夏場は、熱中症に十分注意**する。
 - 家に帰ったらまず**手や顔を洗う**。
人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
 - 手洗いは30秒程度**かけて**水と石けんで丁寧に洗う**（手指消毒薬の使用も可）。
- ※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的生活様式

- まめに**手洗い・手指消毒** 咳エチケットの徹底
- こまめに換気（エアコン併用で室温を28℃以下に） 身体的距離の確保
- 「**3密**」の回避（**密集、密接、密閉**）
- 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅療養



(3) 日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- 通販も利用
- 1人または少人数ですいた時間に
- 電子決済の利用
- 計画をたてて素早く済ます
- サンプルなど展示品への接触は控えめに
- レジに並ぶときは、前後にスペース

娯楽、スポーツ等

- 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- 筋トレやヨガは、十分に人との間隔をもしくは自宅で動画を活用
- ジョギングは少人数で
- すれ違うときは距離をとるマナー
- 予約制を利用してゆったりと
- 狭い部屋での長居は無用
- 歌や応援は、十分な距離かオンライン

公共交通機関の利用

- 会話は控えめに
- 混んでいる時間帯は避けて
- 徒歩や自転車利用も併用する

食事

- 持ち帰りや出前、デリバリーも
- 屋外空間で気持ちよく
- 大皿は避けて、料理は個々に
- 対面ではなく横並びで座ろう
- 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

イベント等への参加

- 接触確認アプリの活用を
- 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

(4) 働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務 時差通勤でゆったりと オフィスはひろびろと
- 会議はオンライン 対面での打合せは換気とマスク

(出所：厚生労働省)
以上